

在宅療養者を栄養支援

「訪問栄養指導をしたい」「在宅での栄養ケアに関わりたい」を実現

“在宅医療と介護の連携”のキャッチフレーズの下、日常の生活を支える食事のアドバイスを求める声も大きくなっています。

我々の医療スタッフへのアンケートでは、在宅療養者の約80%に「栄養・食に問題がある」と答えています。また、「訪問栄養士はどこにいるの？」のお尋ねもたくさんいただきます。

このようなニーズに応えるために、このセミナーを企画しました。

管理栄養士が対象者やその介護者の状況を踏まえ、主治医、ケアマネージャーの方々と連携を取りながら、より実践的で有意な栄養改善が進められるようになることがセミナーの目標です。

在宅での栄養ケアの視点、システム構築、具体的な手順に備える文書・工夫をお話します。さらに、実際の同行訪問、栄養ケア計画と報告書作成の演習を行い、体験を通して生じた疑問や問題点の発見、その質問など意見交換を行います。

修了後の活動を期待しています。ともに歩みましょう。

実施要項

日時	1回目	2016年11月13日(日)	10:00~16:00
	2回目	2016年11月20日(日)	10:00~16:00
	3回目	2016年11月21日	~2017年1月末(随時数回 主に平日)
	4回目	2017年 3月	(訪問実習終了後相談)

会場 龍谷大学 大阪梅田キャンパス (ヒルトンプラザオフィスタワー14F)
〒530-0001 大阪市北区梅田2-2-2
アクセス: JR大阪駅 桜橋出口から徒歩4分・地下鉄四ツ橋線 西梅田直結

対象 訪問栄養食事指導に関わりたいと考えている管理栄養士

定員 1・2回目セミナー 30名
3・4回目セミナー 8名(3・4回目受講者は1・2回目受講必須)

内容 カリキュラム (裏面)

講師 特定非営利活動法人 ケアプランニングNEST

爲房恭子・達 妙美・中村富予・杉浦和希

(管理栄養士・在宅訪問管理栄養士)

槇 敦子(管理栄養士・介護支援専門員)

前田美也子(社会福祉士・精神保健福祉士)

矢野朋子(保健師)

小田見也子(歯科衛生士・介護支援専門員)

外部講師《在宅訪問管理栄養士》

田貝 泉・竹山育子・時岡奈穂子・豊田綾子・藤村真依



参加費 ①1・2回目セミナー受講 6,000円
②1~4回目セミナー受講 10,000円


申込方法 mailにて以下の必要事項を記載の上、お申し込みください。
1.氏名(ふりがな) 2.勤務先(所属) 3.連絡先(住所、電話) 4.参加セミナー①or②

申込先アドレス: care-p-nest@xqd.biglobe.ne.jp 担当: 達(つじ) 妙美
参加費振込先を連絡します。

申込締切 2016年 11月 4日(金)

主催 特定非営利活動法人 ケアプランニングNEST (代表 爲房恭子)
(問合せ) 〒540-0027 大阪市中央区錦屋町2-2-7-501
上記申込先アドレス or TEL 06-6945-1558 FAX 06-6945-1560
M.TEL 09059716617

研修カリキュラム

1回目	訪問栄養食事指導とは その仕組みを知る	訪問栄養食事指導制度その法律、算定要件を学びます。 訪問栄養士の立場（所属など）の違いによって違う契約方法について考えます。 監査に必要な書類(必要文書)を作成します。
	高齢者の在宅生活を支える 専門職と多様な事業主体との協働 ～「かかりつけ管理栄養士」の可能性を探る～	介護保険制度の転換期を迎え生活支援・介護予防サービスの重層的な提供が求められています。 新しい総合事業において、管理栄養士ができることを再定義し、自ら発信していきましょう。
	管理栄養士は訪問して 何をするのか スムーズな他職種との関わり方	訪問栄養食事指導の食アセスメント視点は、どこに置くといいのでしょうか。（在宅の視点） 情報収集を含め、主治医、ケアマネジャーや関連職種にしっかり関わるには、どうすればいいのでしょうか。
2回目	実症例から学ぶ 読んでもらえる報告書の書き方 栄養ケア計画書はどのように？ 	課題は実際の訪問症例-生きた課題を使います。 先行事例と残念な事例からの学びは貴重なものです。 在宅療養者に多い低栄養、生活習慣病、摂食・嚥下、他を検討課題にします。 グループワークにより、栄養ケア計画を考えます。 情報からアセスメントを行い、栄養ケア計画書を作成し、訪問後、その報告書作成の演習をします。
	訪問栄養食事指導の評価と モニタリングの手順・方法	実施した”訪問”に訪問評価は必要です。 モニタリングはどのようにすれば効果的かを考えます。 訪問評価基準は、難しい問題です、症例ごとに最適なものを駆使しなければなりません。
3回目	対象者のお宅に伺う 訪問記録作成 意見交換	訪問に同行していただきます。 実際の在宅訪問で、遭遇する事象を体験することは大変有意な学びです。 読んでもらえる報告書を作成したい。
4回目	訪問症例発表・検討 意見交換	訪問後の”訪問評価”が重要です。 グループワークにより、栄養ケア計画案と訪問報告書の検討を行います。